

第4期 平成30年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第4回全体会議 議事概要

日 時 平成31年3月22日（金）9:30～11:30

場 所 区役所本庁舎6階 第2委員会室

出席委員 毛受委員、稲葉委員、小林委員、郭委員、長谷部委員、田中委員、岩澤委員、申委員、李（香）委員、金（勲）委員、奥田委員、ドウラ委員、朴委員、金（朋）委員、盛委員、李（承）委員、ディンマイ委員、那波委員、本多委員、平野委員、伊藤委員、國谷委員、井上委員、内田委員
24名

欠席委員 張委員、パウデル委員、センブ委員、江副委員、鈴木委員、栗原委員、安藤委員、植木委員
8名

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告

前回の議題（日本語学習支援）に関する追加意見

- ・日本語教室は、地域とのつながりをコーディネートする人を活用するなどして、地域住民と外国人がお互いの文化やマナーを学んだり交流したりできるようにすると良いと思う。

4 議事

（1）外国人相談について

事務局から説明があった。その後、相談を受けている委員からの発言を皮切りにご意見をいただいた。

- ・ネパール人からくる相談のほとんどは生活関係で、増えているのは結婚や離婚などの夫婦関係、他に、家族の呼び寄せや仕事に関係する在留資格、子どもの教育のことなど様々である。新しい在留資格の手続きに関することも聞かれる。相談先を知るルートは、口コミが多い。私たちでも情報を伝えるために、新宿生活スタートブックやしんじゅくニュース、しんじゅく多文化共生プラザのパンフレットなどを配付している。
- ・ネパール人は、SNSを通して先輩に質問して回答してもらうことが多い。正しい回答とはかぎらないので、正しい情報を伝えることがより重要である。
- ・相談に来られた方に聞くのも難しいかもしれないが、もう少しデータがあると、よりよい事業ができるということかと思う。
 - ・もし、まとめサイトのようなものがあれば、外国の人たち自身からそういう情報を発信してもらったり、SNS上でもそういう情報が知られるようになったりすると良い。
- ・ベトナム人は、何かあったとき、新宿区や学校ではなく、インターネットでコミュニティに聞く習慣がある。この習慣を変えるのは難しい。

- ・日本語学校に通ったベトナム人は、そのあと専門学校に通い就職しようとしている。仕事をしているベトナム人は、やはり生活関係や仕事関係の問題が発生するが、そういった問題を相談するところあまりない。ベトナム語に対応できるスタッフが欲しい。
- ・相談窓口で大切なのは、相談員の専門性だと思う。日本で長く生活している外国人に相談員になってもらう必要がある。また、相談員に正しい情報を伝え、相談員を通じて情報提供する必要がある。
- ・現在の外国人相談チラシのデザインからは、暮らしの悩みやストレス、夫婦関係などの内面の問題も相談できるというアットホームな印象、リラックスできる感覚が感じられないというのが正直な印象。そういう相談をすることができるという印象が持てるようなデザインにしたり、タブレットを使った相談の様子などがわかるようなものにしたりすると、より相談しやすくなると感じる。
- ・どこの相談機関であっても、全て対応できるわけではない。地方自治体の外国人相談に求められる役割は何かと考えたとき、コミュニティグループやほかの公的機関とつながって、その人にとって必要なものを提供することだと思う。
- ・できるだけ正しく情報を伝えたい、いろいろなところに情報を流したいというのであれば、外に出ていくことが必要だと思う。例えば担当の人が子育て支援をしているところにちょっと顔を出して、こんなタブレットがありますよ、と言うだけでも効果が違ってくると思う。
- ・相談したいのは、日本に来たばかりの人だけではなく、10年、20年住んでいる人でも起こる。例えば、永住とか定住とかの在留資格の申請をしても認めてもらえないケースなど。あるいは離婚とか。新宿区の職員は温かくて、新宿区に引っ越して良かったと感じる。

(2) 多文化共生連絡会について

事務局から説明があった。

- ・多文化共生連絡会には、以前10年くらい参加していたことがあり、最近は参加していないが、とても活発に会が行われていて良くなっていると思う。
- ・連絡会での意見交換が、なんらかの形で区の政策に反映したり変化があったりすれば、外国人ももっと積極的に参加すると思う。
- ・エスニックメディアの人たちだけの集まりとか、専門性を持つ外国人関連の集まりを作ったらもっと話も深くなるし、そこで課題が見え、解決の実効性も見えてくると思う。分科会のように専門性によって分けて会議をするのも意義があると感じる。
- ・私たちもこの連絡会に参加している。多文化共生を中心に積極的に区のコミュニティに参加したいと考えている。コミュニティに参加する話があれば、協力させていただきたい。
- ・連絡会のような会で、外国人・日本人と分けるのもどうかとは思いますが、全てを外国人が主体になって企画するようなものがあっても良いと感じる。
- ・多分、日本人外国人問わないで運営されていると思うが、皆さん忙しい。まちづくり会議ができた直

後は、連絡会の参加者はかなり少なかったというイメージがあるが、最近は結構参加しているというのが正直な印象。

- ・ 地方自治体、すなわち公的な機関が、敷居が低い形、誰でも参加できるという看板を掲げてやっていくというのはすごく大事なので、ぜひこういう形で、この枠組みはぜひ残していただきたいということを強調したい。
- ・ 本庁としんじゅく多文化共生プラザの相談窓口とは棲み分けができていているという感じがする。プラザでしかできない相談窓口の色というものを出していくと、プラザの活用の仕方があると思う。

(3) 次回の日程

事務局から次回会議の日程（平成31年5月24日）について説明があった。

(4) その他

5 閉会